

第1回 高知県史編さん委員会

日時：令和4年4月8日（金）

15時30分～17時00分

場所：高知県庁本庁舎1階 正庁ホール

出席委員：濱田委員長、藤井副委員長（監修者）、古谷委員、中平委員、
宅間委員、上岡委員、今城委員、岡崎委員、戸梶委員、長岡委員、
井上委員、渡部委員、羽賀委員、大門委員、鋤柄委員、常光委員、
岡本委員、原委員

事務局：岡村部長、小笠原副部長、中内課長、山崎企画監、窪内課長補佐、
南チーフ、小林主事、弘田主事、坂本専門員、
長尾会計年度任用職員、松島会計年度任用職員

配布資料：委員名簿

配席図

【資料1】高知県史編さん事業の概要

【資料2】高知県史編さん基本方針

【資料3】高知県史の編さん体制

【資料4】高知県史の編さん計画案

【資料5】高知県史に係る第1期計画について

【参考資料1】高知県史編さん委員会設置要綱

【参考資料2-1】近世部会の発足について

【参考資料2-2】近代部会の発足について

【参考資料2-3】民俗部会の発足について

1 開会

2 委員長（高知県知事）挨拶

濱田委員長より開会挨拶

3 副委員長（高知県史監修者）挨拶

藤井副委員長より挨拶

4 委員紹介

5 協議・報告事項

(1) 高知県史編さん基本方針について

資料1、2について事務局より説明

- ・まずは、各市町村を訪問するなどを皮切りに、現存する歴史資料の全体把握に努め、資料のデジタル化を進めていく。
- ・県内の博物館や教育機関と連携し、資料調査に関心を持つ方などを対象に、将来的な資料調査に対応できるような実践的な養成講座を開講するなどし、人材育成を図る。
- ・現物の収集によらず、写真記録などデータ収集を行う。散逸の可能性があると思われる資料については、市町村や博物館、図書館などの各関係機関と連携し、歴史資料を県民共有の文化財産として伝え残すよう努めていく。
- ・文化広報誌「とさぶし」の中で、編さん事業や資料調査で判明したことを伝達し、県民の皆様への広報や成果の提示に努めていく。

各委員質疑なし

(2) 高知県史の編さん体制について

資料3について事務局より説明

- ・編さん体制は「高知県史編さん委員会」、「高知県史編さん編集委員会」、「専門部会」の3段階の組織となっている。
- ・他県の県史では、各部会が一斉にスタートするのが通例であるが、本県においては段階的に各専門部会を立ち上げる予定。
- ・専門部会の立ち上げとともに、順次各分野での専門性を有する職員の配置、必要となる体制の拡充を図る。さらに、必要に応じて特定の分野に精通した特別調査委員や執筆委員、膨大な歴史資料調査に従事してもらう調査協力員を置くこととしている。

各委員質疑なし

(3) 高知県史の編さん計画について

資料4について事務局より説明

- ・各専門部会ごとの担当する時代区分と巻数、目安となる作業の年数を説明。
- ・可能な限り早期に県民の皆さまに資料調査などの編さん事業の成果を提示するために、仮称ではあるが「新たな高知県史へのいなざい」を発行するなど、分かりやすく魅力ある刊行物を発刊することを予定している。

各委員質疑なし

(4) 高知県史の第1期計画について

資料5について事務局より説明

- ・20年にわたる県史編さん事業を概ね5年ずつ4期に分け、計画を策定し、しっかりと進捗管理を行っていく。
- ・計画の内容として、部会の運営方法のほか、資料情報収集の方法や各巻が扱う分野と内容等を盛り込んでいく。

各委員質疑なし

(5) その他

参考資料2-1、2-2、2-3について各専門部会長より説明

【各委員の主な意見】

- 今の県史では昭和南海地震は近代編で取り扱われている。また、この20年間の新しい県史編さん事業中に次の南海地震が発生する可能性がある。こういった地震に関する取扱いはこの部会が対応することになるのか。
 - 前回の県史には現代編がなく、近代編で取り扱った。基本的には1945年、昭和20年を境に近代と現代の区分けを一定すると思う。災害については非常に重要なテーマであるため、現代部会だけでなく、他部会でも取り上げる内容になるかと思う。

6 閉会

(以上)